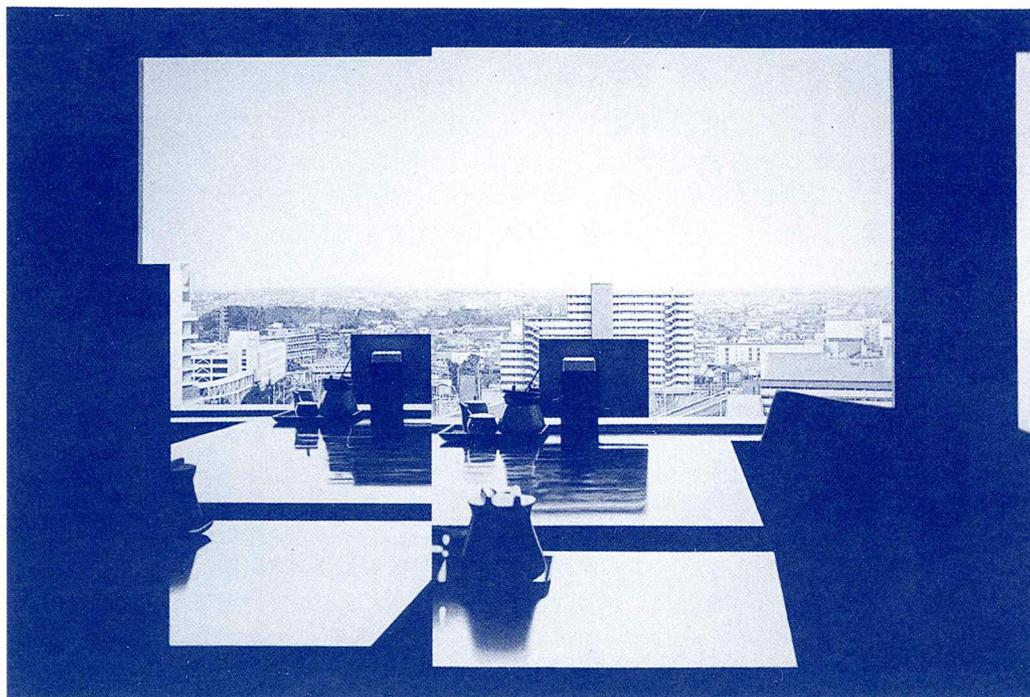




VOL.29 NO.2  
(通巻86号)

 **2002**  
**ART NEWS**  
千葉県立美術館



## 収蔵作品による企画展

まる さんかく しかく

### 「● ▲ ■」の「■の世界」から「絵画」高森 登志夫

この作品は昭和六十年に本館特別展として開催した「浅井忠記念賞展」で優秀賞を受賞しています。作者は東金市生まれでシェル美術賞展、日本国際美術展など数々の公募展で受賞を重ねました。

作者の言葉によれば、作品発表を始めた昭和四十九年頃はコンセプチュアルアートの全盛期でした。作者は、そのような状況の中で、自分が対象物とどのような位置関係にあるかをドア、鏡、窓を使い、関係そのものを主題として克明な描写で作品の制作を続けました。この作品はそのシリーズの最後の時期に制作されました。

この作品について作者は、「私の主題は、対象そのものではなく、対象との曖昧な関係を含んだ思いのようなものであり、あえて言えば、画面のこちら側にある。」と語っています。

風景や人物を描きながらも、作品の主題は風景の清々しさや人物の美しい目鼻立ちではなく、自分とその風景との関連、その人物と自分との曖昧だが確かに存在する関係性だということでしょうか。

例えば、公園のブランコを描いた作品があるとすると、そのブランコは、作者が子供の頃、いつも遊んでいた思い出深い物であるとか。好きな人が訪れて楽しいひと時を一緒に過ごし帰っていった後、翌日にもその人の気配が残っているように感じられるソファを描いたりといった感じかも知れません。

その際、画面のどこかに作品を解く鍵があるように思えます。

この作品に描かれているのは、日本のどこにでもあり、誰でも入ったことがあるようなビルの中のレストランです。

ブルーグレイの色調が物憂げでありながら感情を抑制し、光ったテーブル、ビルの並ぶ少し殺風景な外の風景、テーブル、メニュー表、ナプキン入れなど四角い物たちが整然と並びながらも静かに何かを物語っているようです。

ここで食事することは作者にとって他愛ない日常の一コマかも知れませんが、この座席は大事な人と過ごした思い出の場所かも知れません。窓から見える景色はつらい事があった時に、ここに腰掛けて眺めたものかも知れません。

作品をよく見ると、同じシーンが少しずつ繰り返されているところ、モノクロームのような色彩でまとめたところに、作者の意図がさりげなく感じられます。

まるさんかくしかく  
 収蔵作品による企画展「● ▲ ■」

11/23(土)～平成15年1/26日(日)(期間中、11/25.12/2・9・16・26～1/6・14・20は休館)

この企画展では美術作品の中に登場する●と▲と■という基本的な形に焦点を当て、●▲■を表現に生かした日本画、洋画、彫刻、工芸、版画の各分野から作品46点を紹介します。

●▲■の形には、何かを象徴し、潜在的に訴えかけて鑑賞者に共通の感情を喚起するところがあるように思えます。例えば●が象徴するものである卵・果実には生命の源、眠っている可能性、発芽への夢や希望などのイメージが喚起されないでしょうか。

同じ●が象徴するものでも、太陽や月、渦巻、水面の波紋、同心円、傘、風船などにも、それぞれ異なるイメージの世界があります。

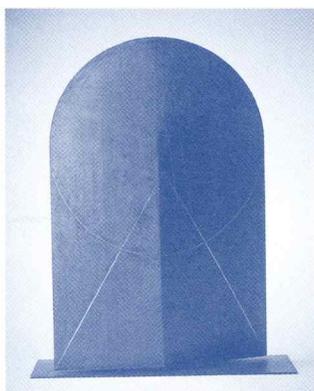
■が象徴するものである窓、ドアには、別の世界への入口や、見えないドアの内側への期待をイメージさせます。

同じ■が象徴するものでも、机は整然とした空間を、ビルは都会的で発展的あるいは殺風景なイメージを与えます。部屋は快適さ、閉鎖性、孤独などをイメージさせる独立した空間を思わせます。

▲が象徴するものには、横に広がれば地平線の果てしない広がり。上にそそり立てば、崇高さ。屋根はその下で繰り広げられる個々の生活空間を思わせます。他にもスカート、蝶、森林、トライアングルなどをイメージさせます。

●▲■が組み合わされば、シャープさや落ち着き、スピード感、リズム等が溶け合った新しい空間が生まれます。

それぞれの形の魅力を「●の世界」「▲の世界」「■の世界」「●▲■の世界」の4つのコーナーで展示します。次に代表的な展示作品をご紹介します。



「Circle & Triangle」 米林 雄一

米林の作品は、扁平な三角形や半円などシンプルで幾何学的な形の木材を制作に用いています。その外周に鉛の線を埋め込んで縁取り、表面にも同心円状、放射状の鉛線を象嵌し、作品の印象をシャープにしています。そして作品全体に鉛筆の芯である黒鉛を隙間なく塗り込んでいます。

富山に長く住んだ作者は、いつも山に囲まれた環境にあり、鋭く刻まれた渓谷を山の精霊のごとき冷気が吹き抜けたり、夜明けの山の裾野にまわりつく霞や震える梢など静寂の中の雄大なドラマの数々を目にしたことが発想の原点となっています。

鉛線による遠近法を生かした幾何学的な模様による一連の作品は、天空に広がる星の軌跡を象徴しているかのごとく不思議な魅力に満ちています。鉛筆の芯で隠れた木肌は鉱物的な暗灰色の光沢を放ち、重厚な存在感と木板の内部への興味を誘います。

「森の生活」 増田 陽一

増田の作品は人間や動植物を思わせる有機的な形態とその形を埋める同心円の重なりで構成されています。生命が作り出すフォルムは蝶であれ葉であれ見ているとあまりに美しくあらためて描写することは余計なことだと思われてくるのだそうです。

また、同心円の重なった所に現れる干渉縞(モワレ)は形態の中でヴォリュームを暗示したり、逆に平面化したり、空間の中に波動のように現れて、心理的な関心の方向や画面構成上の動きを示したりする作用があります。それは人工的に得られた葉脈であり、翅脈でもあるのです。

抽象的なシステムで画面を均一に覆って描写によらず、自然な印象を得たいというのが作者の意図するところです。



「グレーの冬」 近藤 南海子

ミロやカンディンスキーを思わせる落書きか、暗号めいた図柄を無数の大小様々なピラミッド型が包んでいます。

これに、蝶の羽ばたきと森林の▲がからみ、その間を縫うように氷上を縦横無尽に滑るスケートの跡のようなダイナミックな曲線が走り抜けていきます。

作者は幼児期を過ごした北国への思いを描いたそうです。

楽しくて、わくわくするような画面を、寒く暗い北の景色が引き締めており、幻想的な物語の世界の中にいるようです。

※同時開催の「房総と近代美術」「浅井忠展」「彫刻」も併せてご覧ください。

# 展覧会案内

収蔵作品による企画展

## 房総と近代美術 11月9日(土)～3月30日(日)

近代日本美術史上に足跡を残した千葉県ゆかりの作家を中心に房総と近代美術を再見します。

企画展

## 触れる美術展 11月19日(火)～12月1日(日)

日常的に視覚に偏りがちな作品鑑賞に対して、五感(特に触感)による作品鑑賞を主眼にした展覧会を開催します。

収蔵作品による企画展

## 浅井忠 11月23日(土)～3月30日(日)

本館の主要作家である日本近代洋画の先駆者・浅井忠の業績を顕彰します。

まる さんかく しかく

収蔵作品による企画展

## ○ △ □ 11月23日(土)～1月26日(日)

基本形態である○△□を表現に生かした作品を展示し、その効果を探ります。

関連事業 展示場で体験する『おもしろ鑑賞会』&ミニワークショップ

★むじゃキック・サタデイ★ 『形さがそう!形つくろう!』

■内容 まる/さんかく/しかくの形を、展示作品から探り出したり、形を組み合わせながら遊ぶ、創作体験をします。

■対象 小中学生

■日時 12月21日(土) 1月18日(土) 13:00～14:20

関連事業 ★担当学芸員による展示解説★

■日時 12月21日(土) 1月18日(土) 14:00～15:00

■会場 千葉県立美術館 第1, 2展示室

■対象 一般(当日参加自由/無料) ※展示室入り口にお集まりください。

収蔵作品による企画展

## 彫刻 12月17日(火)～4月13日(日)

多様な技法や形態による彫刻作品を通して、その魅力を紹介します。

収蔵作品による企画展

## 相・会・愛・対のかたちー 2月1日(土)～3月23日(日)

2つの形が出会うとき、1つのときにはなかった何かが生まれ、みえてきます。

関連事業 展示場で体験する『おもしろ鑑賞会』&ミニワークショップ

★むじゃキック・サタデイ★ 『“あい”しちゃった?ラ・ラ・ランラン!』

■内容 対の形(ペアの形)の作品を楽しみながら様々なペアの表現を発見したり、対(ペア)の形を折り紙や発泡スチロールで作る創作体験をします。

■対象 小中学生

■日時 2月1日(土) 3月15日(土) 13:00～14:00

関連事業 ★担当学芸員による展示解説★

■日時 2月1日(土) 14:00～15:00

■会場 千葉県立美術館 第1, 2展示室

■対象 一般(当日参加自由/無料) ※展示室入り口にお集まりください。

## 「第26回千葉県移動美術館」

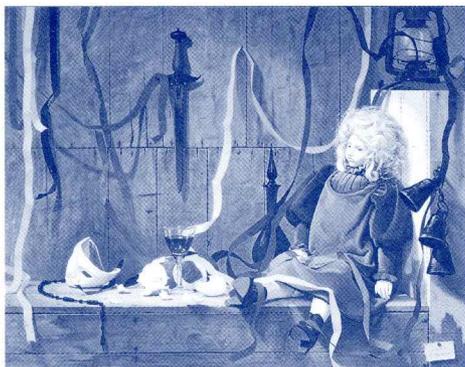
国内外の優れた美術作品をより多くの県民の皆様にご鑑賞いただくため、毎年、県内の市町村施設を会場に「千葉県移動美術館」を開催しています。本年度は、市川市と市原市の2箇所、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・版画の各分野から選りすぐった本館収蔵作品と、併せて平成14年度第54回千葉県美術展覧会（県展）の代表的な受賞作品を展示いたします。千葉県立美術館での展示とは異なる空間と雰囲気の中で、美術鑑賞を楽しんでいただきたいと思います。

### （1）第1会場 市川市文化会館

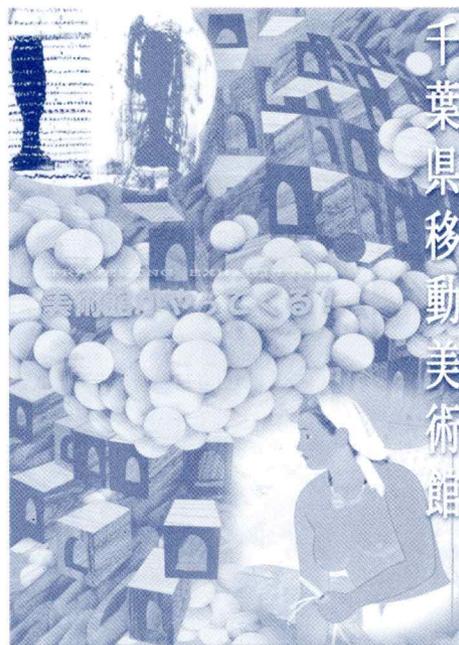
市川市大和田 1-1-5 電話047-379-5111  
会期 11月16日(土)～12月1日(日)休11/19.25.26  
展示解説 11月24日(日)14:00～15:00

### （2）第2会場 サンプラザ市原

市原市五井中央西 1-1-25 電話0436-24-1151  
会期 12月4日(水)～12月15日(日)休12/9



＜出品作品＞伊牟田経正 「悲劇」



＜展示会ポスター＞

## ★ワークショップ【創作体験】のご案内★

### ★アーティストとコラボレーション★『アーティストと共演！スチロールオブジェ』

- 内容 大きな発泡スチロールを、特殊なスチロールカッターで形を切り取りながら、立体オブジェを作ります。完成した作品と、作家の作品とのジョイント展示をします。
  - 対象 小学生～高校生まで（定員30名程度）
  - 日時 平成15年1月25日（土）12：30～15：00
  - 会場 千葉県立美術館 第7展示室
  - 参加費 1,000円（保険料／材料費等）
  - その他 小学生以下の参加は原則として保護者同伴で。
  - 往復はがきで事前申し込みが必要です。
- ◆申し込み締切り日 【1月16日必着】◆



（写真は、昨年度のもです。）

### ♥申込み方法♥

往復はがきに、参加希望ワークショップ名・住所・氏名（ふりがな）電話番号（小学生～高校生は学校名・学年）を記入のうえ、千葉県立美術館ワークショップ係まで。応募多数の場合は抽選となります。

